



# 京都 YWCA

# 11 2018

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## ふれあいの居場所「うららかふえ」4周年を迎えて



「うららかふえ」は地域の方々や YWCA の活動参加者、YWCA の会館で生活する高齢者や若者、留学生など多世代・多文化の人々が出会い、協働し、交流する「ふれあいの居場所」です。2014年9月9日に開業し、今年4周年を迎えました。

### 4年間の取り組み

その間には毎月バラエティに富んだメニューが並び、常連のお客さまもずいぶん増えました。かふえボランティアの心のこもった手作りランチやお菓子を「美味しい」と言ってくださるお客さまの声は、活動の支えになっています。

4周年企画として、かふえスペースにこの1年間のランチの写真を展示しています。

ふれあいの居場所「うららかふえ」事業部委員会（以下、かふえ委員会）では、安心・安全な食を提供するための取り組みとして、かふえボランティアを対象に衛生管理講習会を実施し、衛生管理表を使って日々の食の安全に努めています。また、京都市食品衛生協会が実施する食品衛生責任者養成講習会ほか、食の安全に関するセミナー等への参加を呼びかけています。

### 活動の広がり課題

今年度は6月に京都市の実施する「生き方探求・チャレンジ体験」で中学生を受け入れる機会にも恵まれました。また、YWCA で生活する自立援助ホーム「カルーナ」の若者や、高齢者住宅「サラム」の方たちがかふえ活動に加わり、かふえボランティアや職員とともに料理をし、ランチの準備や提供を担っています。このことはかふえボランティアにとっ

ても貴重な体験になり、まさしく食をツールとして多世代が協働し、交流する場としての役割を果たしていると言えます。

一方で、継続的な担い手の課題も出てきました。

「うららかふえ」では当初、週5日の営業日のうち2日は委託に、3日はボランティアにより営業する計画でしたが、ボランティアや委託先の募集には継続して取り組んでいるものの年々その数は減少しています。担い手を広げるために試行錯誤を続けています。

そこで、かふえ委員会では、W.M. ヴォーリズ建築の素敵なかふえ空間を、食を提供する場だけにとどまらず「ふれあいの居場所」としての活用をさらに進めていく取り組みを始めました。YWCA 内外にかふえ空間の活用を呼びかけると同時に、この4年間実施できなかった地域の方々との繋がりを積極的に築く取り組みや、対象者を絞ったかふえ活用などの取り組みをしていこうとしています。

「ふれあいの居場所」事業は、京都 YWCA が様々な事業を展開していくときの交流点としての役割を担っています。この事業が持続可能なものになるために何が必要なかをじっくりと考えて取り組む時期に来ていると実感しています。

(河野伴子)



ある日のランチ「チキン南蛮」(650円)



人気のケーキセット (300円)



健康体操企画で楽しく筋力アップ

## 日韓ユース交流プログラムに参加して

私は京都府在住の高校三年生です。人と関わることが好きで、夏休みを利用して色々な人と関われる機会はないかなと思い、京都 YWCA と出会いました。最初は東日本大震災後の福島の被災者支援プログラムに興味を持って話を聞きに行ったのですが、話が広がり、8月17日～20日の日韓ユース交流プログラムに参加することになりました。

このプログラムを通して、人と繋がる大切さや互いを思い合う心を知り、人として成長できたと感じます。私はこれまでに多文化交流の経験がなく、不安と期待の中で準備をしました。準備段階では、一人で飛び込んだので、最初は不慣れでしたが、京都 YWCA には親切な方達がいて、さらに参加者も皆いい人達だったのですぐに溶け込むことができました。

何度も調整を繰り返して、ようやく待ちに待った交流の日がやってきました。最初はコミュニケーションを取るのもぎこちなく、一言二言話すのがやっとでしたが、プログラムが進むうちに会話が増えていきました。ホームステイでは、韓国からの参加者に異なる生活様式を体験してもら

い、グループ学習では日韓にまつわる場所を散策して互いの国や文化への理解を深めました。また、浴衣や火花、流しそうめん体験を韓国の人たちが珍しそうに楽しんでいる姿を見て、何度も調整を繰り返した甲斐があったなと心から嬉しく思いました。

仲良くなると時間が過ぎるのもあっという間で、別れの時には涙を流す子もいた程でした。皆、心の底から楽しんで仲良くなり、国の壁はもはや関係ないのだと再認識しました。しかし、コミュニケーションが難しいと感じることもあったので、最初にしたスイカ割りのように、韓国人は日本語、日本人は韓国語で喋るといった制限を設けて楽しみながらコミュニケーションを取り、学べるといったゲームがもっと必要なのかなと思いました。そうすればより一層皆で楽しめ、素敵な思い出になるだろうと思います。私は今回の経験から人との繋がりは本当に大切だと感じ、もっと幅広い活動をしていきたいと思いました。

(山田咲希)



浴衣を着て流しそうめんを楽しむ韓国からの参加者



みんなで集合写真



グループ学習の発表風景

### エンディングノート学習会

## 遺される人を思いやり、自分らしく今を生きるために

9月3日、公益財団法人京都 SKY センターの高齢者情報相談センター所長内山貴美子さんをお迎えしてエンディングノート学習会を実施しました。内山さんは相談員としての豊富な経験を踏まえ、エンディングノートの意義を分かりやすく語られました。

「終活」という言葉は今では身近な言葉として社会に受け入れられるようになってきました。その背景として、高齢者独居世帯が増加し、医療・介護・葬儀の多様化もあり、自分の意思を伝えておく必要があるからです。エンディングノートは遺される人々に伝えるべき事項を整理する絶好のツールです。

ノートの主要項目は、自分史、医療、介護、葬儀・お墓、財産・遺言などです。医療については、延命治療を望まない人はノートに含まれる「尊厳死の宣言書」と「医療判断代理委任状」に記入しておくことと近親者は助かります。遺影写真や親族・知人リストの用意も遺族にとって有難いことです。財産については、預貯金、株式、保険、年金、不動産のほか、負の財産や遺言書の有無を伝えることも重要です。財産管理に関して、判断能力のあるうちに利用する任意後見制度と、能力が衰えた後の法定後見制度についても説明されました。

### 事例から見えるエンディングノートの意義

故人が意思を明示していなかったために発生した家族間のトラブルや、無念の思いをされた遺族のいくつかの事例も紹介されました。ノートは書きやすい項目からとりかかり、鉛筆で書いて一定期間ごとに更新するとよいことや、保管場所を伝えておくことなども助言されました。



エンディングノート学習会の風景

エンディングノートは法的効力をもちませんが、遺される人々への思いやりであり、贈り物だと感じます。日頃気になっていたことを記述しておくことで心のゆとりが生まれ、人のために活動する気持ちにつながることで、健康で長生きしている人はそんな人が多いという言葉で最後を結ばれました。

(上村愈巳子)

## 函館から、研修させていただきました!

数年前に受けた京都検定3級は1点差で見事不合格でしたが、京都が大好きです。

8月28日～9月5日まで京都YWCAにて函館YWCA職員として約7日間研修させていただきました。来年創立70年を迎える函館YWCAがさらに地域に開かれた共生の場となるべく、新たな活動を検討したい!—そのためにカフェを中心に「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を実践されている京都YWCAで修行させていただきたい!というのが今回の研修の背景でした。

メインの研修の場となったうららかふえでは、ホールや調理補助、片付け、ボランティアへのオリエンテーションやかふえ委員会などに参加しました。特に印象的だったのは三つ。一つは、



かふえキッチンでの研修風景

かふえ委員会を中心に各委員会の活動の場の一つとして会員が広くうららかふえにかかわり、責任を持ちながらも楽しんでやっていたらっしゃるように見え

たこと。二つめは、味も見た目も副菜も素晴らしい献立!ルーロー飯、ガパオライス、鯖塩焼き、チキンライス…、回数券を買って毎日通いたくなるおいしさや仕組みに感動しました。三つめは、衛生管理がとてもしっかりしていること。衛生管理表の読み上げチェックやお皿や食材を蓋付きボックスで保管するなど徹底していて、函館YWCAでもすぐに真似したいと感じました。

カフェ以外にも、自立援助ホーム「カルーナ」で夕食を囲みながらのおしゃべりや、高齢者住宅「サラーム」居住者や会員の方々との、時にはお酒を交えての交流、3市YWCA合宿の打ち合わせでの濃い話し合い、会員・職員の皆様からヒアリングさせていただいた事業や活動の実態と志…などとてもたくさんのギフトをいただきました。

函館YWCAは、先日、食をテーマにしたドキュメンタリー映画の上映会とマルシェを開催し、200人を超える地域の方々に来館いただきました。「食を通じて地域につながる」ことに少し手応えを感じている今、京都研修で得た学びをどう具現化していくか、目下アツい議論を交わしているところです。  
(泉 花奈)

## YWCAの未来に向けて～3市YWCA合同合宿

台風が過ぎた9月22・23日に神戸六甲山YMCAで、昨年に引き続き日本YWCA地域連携事業の一環として大阪・神戸・京都の3市の地域YWCAが連携して企画運営する交流合宿が開催されました。参加者は京都・大阪・神戸・名古屋の各地域YWCAからと、さらに今年は横浜・福岡・静岡のメンバーが加わり28名でした。

初日に行われたセッションは、京都YWCA(ミッション推進活動運営委員会)が担いました。参加する各YWCAに組織や運営委員会、合宿でとりあげるテーマについて事前にアンケート調査をし、その結果を集約した資料を作成した上で、当日のセッションで各YWCAの運営委員会紹介動画上映、運営委員会の実態、特徴、課題などについて全体で情報を共有した後、小グループに分かれて話し合いました。

それぞれの組織運営の違いや特徴がありますが、課題は共通していました。運営委員の担い手の発掘、世代交代に向けてのユース獲得等々…人との出会いと人材育成が大きな課題です。形や活動の仕方は違っても、基盤を同じくする地域YWCAの会員同士が、YWCAの未来に向けて真摯に話し合う中で、解決へつながる情報が共有できたと思います。

具体的には、グループ活動は多いが会員は少ない点については、グループを委員会にする、

ボランティアから会員への登録制度により時期が来たら会員になるかならないかを選んでもらう、若者獲得については、会員活動部門以外のYWCAの事業を支えてくださる専門家を巻き込んでゆく、などです。

二日目のセッションでは、各地域YWCA共通の課題である「リーダーシップ養成」「組織理解」「ユース育成」について、京都YWCA参加者が、運営委員会の取り組みを紹介しました。それをもとにグループセッションを行い3つのテーマを掘り下げて考える時間を持ちました。

セッションの他にもキャンプファイヤーや交流、朝のメディテーションもあり、充実したプログラムの下、良い交流ができたと思います。情報共有と活発な話し合いによりアイデアが生まれ、参加者それぞれがエンパワーされたと感じる合宿でした。  
(青野美佐江)



合宿でのワークショップの様子



密度の濃い2日間を終えた笑顔

## 今後のプログラム

## ◎あきまつり

- 日 時：2018年11月11日(日)  
13:30～16:30(13:00開場)
- 場 所：京都YWCA
- 内 容：ライブコンサート、人形劇、リズム遊び体験、パルーンアートなど
- 参加費：親子(大人1人+子ども1人)1,000円、  
大人1人700円、子ども1人500円、  
1歳未満無料、在京避難者・多文化家族ご招待
- 申 込：不要

◎2018年度YMCA/YWCA 合同祈禱週集会  
日野原重明さんからのファイナルギフト  
～ユースエンパワメントに向けて～

- 日 時：2018年11月16日(金)  
19:00～21:00(18:30受付開始)
- 場 所：京都YWCA
- ゲスト：川越厚さん(医療法人社団パリアン理事長)
- 参加費：500円<茶菓付>(学生無料!)
- 申 込：京都YMCA(担当：藤尾)、  
京都YWCA(担当：山本)まで

## ◎多文化かふえ

- 日 時：2018年11月24日(土)11:00～16:00
- 場 所：京都YWCA うららかふえ
- 内 容：ワンコインランチ(特別価格500円)等の提供のほか、多文化に関する展示や多言語でのおしゃべりを楽しんでいただけます。

## ◎クリスマスバザール～共に生きる世界を～

- 日 時：2018年12月1日(土)10:00～15:00
- 場 所：京都YWCA
- 参加協力金：100円(2019年春に実施する福島の中高校生対象プログラムの資金とさせていただきます)  
これまで長い間、6月にあじさいバザール、12月にクリスマスバザールを行ってきましたが、補修工事などのためこの形でのバザールは、これが最後となります。



## 9・10月/理事会報告

- 女子留学生寮あじさい寮の新入居者に対して、オリエンテーションおよび留学生をサポートするボランティア(「すけっと」)との交流会を実施(9月8日)
- 9月にうららかふえ開業4年目に入り、記念週間を実施(9月11日～15日、本紙1面参照)
- 台風21号で本館・サマリア館で数カ所の被害があり、修理を含む対応を行った。
- 三市YWCA合同合宿を六甲山YMCAにて実施(9月22～23日、本紙3面参照)
- ボランティア説明会を実施し、京都YWCAの活動を紹介した。(9月29日)
- AHI(アジア保健研修所)巡回報告会「被災地支援からの地域づくり——フィリピン・バナイ島の取り組み」実施(10月8日)

## ご寄付ありがとうございました。

2018年8月1日から9月30日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

## 一般寄付

阿部和佳恵、函館YWCA

篠田茜、一色光世、岡佑里子、池本末玉、果川教会、弘中奈都子、神門佐千子、安藤いづみ、宮武美知子、内田匡子、多文化共生委員会有志、匿名1名

## 各指定寄付

## \*未来応援募金

神岡茂子、高橋正子、運営委員会有志

## \*親・子育て支援活動委員会

伊藤千佳子、梅田保子、坪野えり子、吉谷節子、親子ライブラリー有志、親・子育て支援活動委員会有志

## \*平和・環境委員会

平和・環境委員会有志

## \*うららかふえ

全仁紘、小原圭悟、仲本彩乃、林美和、古澤優太、岡田美希、穴戸悦子、早川知花、吉田響

## \*多文化共生委員会

委員会へ  
織田雪江、安藤いづみ\*自立援助ホーム「カルーナ」  
後援会費・寄附APTへ  
坂和優、上内鏡子、竹内昌代、ユニオン「らくだ」

迫田雅代、上村愈巳子、上村京子

## \*賛助費

日韓ユース交流プログラムへ  
平野富希、張善花、山本知恵、

梓山悦子、松永公子、上村剛士、中村和雄

## 第2回Yわい亭チャリティ寄席 桂九雀

台風25号の接近に伴い実施が危ぶまれましたが、無事開催できました。初めての方から落語ファンの方まで、生演奏のお囃子付きの落語を楽しんでいただきました。(10月6日開催)



KYOTO YWCA No.547

2018年11月号(11月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都YWCA

定 価：奇数月1日発行(1部50円)